

T.M.P.H.ニュース

2016 Autumn Vol.16

Tokyo Metropolitan Police Hospital News

CONTENTS

- 医療の安全について
- 臨床生理検査科の紹介
- 医師コラム「高齢になってからの腰痛、それは圧迫骨折かも?!」
- 産科病棟の紹介
- 東京警察病院DMAT
- 区民健康講座のご案内
- 予防医学センターの紹介

医療の安全について

医療安全管理室 専従リスクマネージャー
看護師長 山崎光代

テレビの健康番組などで最先端医療や名医などについて知る機会が増えましたが、皆さんは受診する病院をどのように決めていらっしゃるのでしょうか。

医療の内容にもよりますが、まずは信頼できる病院かどうか大きなポイントになりますね。そこで皆さんが安全で信頼のおける医療が受けられるよう、病院が行っている「医療安全」についてご説明します。

『患者・家族はチーム医療のパートナー』

病院では、医師、看護師をはじめとする様々な専門職が互いに連携・協調して医療を行ういわゆる「チーム医療」として、安全で質の高い医療を提供するよう努めています。

ただし、「チーム医療」に欠かせないのは、患者様とご家族のご協力であり、医療者から必要な情報の提供を受け、話し合い、納得の下で自分たちにとってよい治療を決めることがなによりも大切です。

「診断と問題点」、「治療とリスク(治療の効果、治療しない場合のリスク)」などについて医療者と話し合い、受ける検査や治療を理解して同意することが医療安全に繋がります。

『患者間違い防止～フルネームでお答え下さい』

1999年、異なる患者に異なる手術を行った医療事故がありました。医療安全の基本は「名前の確認」です。当院で検査や治療を受ける場合には、まず患者様に名前を名乗ってもらう、入院中は手首に装着したIDバンドで確認(認証)を行うことで安全確保をしています。何度も名前を言うことは面倒と思いますが、より安全な医療を提供するためフルネームで答えていただくようご協力をお願いします。



臨床生理検査科の紹介

臨床生理検査科部長 笠尾昌史

臨床生理検査科は医師1名、臨床検査技師21名、視能訓練士6名、臨床心理士1名の計29名の大所帯です。

当科業務の一番の特徴は、患者様にじかに接して検査を行うことですので、科員は身だしなみに気を付け、患者様に不用意な発言をしないなど不快感を与えないことはもちろん、患者様の訴えを聞き検査結果と合わせて病態を判断し、検査所見上急を要すると判断した場合にはただちに結果を臨床サイドにフィードバックするなどの機転が求められる部門です。

全ての診療科から検査依頼を受け、その業務内容は広範にわたりますので代表的な検査のみをご紹介します。心電図関係では12誘導心電図検査が年間12,000件強と飛びぬけて多く、循環器科をはじめとする内科からの依頼と術前検査としての依頼に大別されます。この他に不整脈や狭心症などの診断を目的とするホルター心電図検査(1,000件)や運動負荷心電図検査(600件)もあります。超音波検査としては、心臓の精査を目的とする心臓超音波検査(4,400件)と腹部諸臓器の精査を目的とする腹部超音波検査(2,200件)が主たるものですが、動脈硬化性疾患の増加に伴い頸動脈エコー検査が増えています。呼吸機能検査は



術前検査としての役割の他、肺疾患の評価に重要な検査です。その他、脳波、聴力、平衡機能、視力、眼底、眼圧測定など数多くの検査があります。

科員は診断精度の向上を目的に自らの技量を磨くことを常に心掛け、また最新の情報を取得するために各種講習会や学会に積極的に参加しています。

患者様に親切・丁寧に接するとともに質が高く診療に役立つレポートを提供する臨床生理検査科を目指しておりますので今後ともよろしくお願いいたします。



東京警察病院
Tokyo Metropolitan
Police Hospital

東京警察病院の頭文字「T」をモチーフに、3つの「意味」を込めてつくられました。
Thoughtful(ソートフル) 患者様の立場に立った医療を目指していきます
Technical(テクニカル) 医療レベルの向上に努めています
Trustworthy(トラストウォーシー) 皆様の信頼に応えていきます

